

# 徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 総括評価表

		自己評価		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）		評価指標の達成度		学校関係者の意見	
		評価指標		総合評価			
I 思考力や判断力を養うとともに、自主的・主体的な学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。	《全校レベル》 生徒自身が考え判断し実践できることをめざし、また、意欲的に学習に取り組む習慣を確立できるような学習指導の工夫や授業改善に取り組む。 《下位組織レベル》 ①年間2回の相互参観授業の実施や教員研修会、授業評価を通じて、教員の授業力の向上を図る。 [全教員] ②週課題は、思考力の育成や自主的な学習活動に繋げる。 [看護科] ③自主的な学習習慣を支援するため、課題学習の工夫・改善を図る。 [専攻科] ④生徒に学習の具体的な目標を持たせるため、各テスト(看護科目実力テスト、課題テスト、実習前総合評、YEPE、基礎看護技術テスト、模擬試験)を計画的に実施し、事後の個別指導の充実を図る。 [教務課、進路指導課、看護科、各教科担任、HR担任] ⑤専門領域の教員研修に取り組み、専門科目の指導の充実を図る。 [全教員] ⑤家庭学習を充実させるため、予習・復習を必要とする授業展開や指導方法を工夫する。 [全教員]	①相互授業参観週間を年2回実施し、評価に基づいた授業改善を行う。	相互授業参観週間を6月と9月に実施した。参観者と授業者が意見交換を行い、授業改善に繋がっている。	A	(評定)  A  生徒全員が真面目に学習に取り組んでいる。教員はアクティブラーニングの手法を取り入れ、主体的な学習活動ができるよう工夫している。  自主的・主体的な学習習慣の確立、思考力の育成を更に推進していきたい。	生徒は学習の必要性を強く認識し、日々真面目に取り組んでいる。今後は自主的・主体的な学習習慣を全ての生徒に確立させるとともに、考える力を育成していく。そして、自分の意見や考えを理路整然と表現できる力も育成していく必要がある。そのためには、発表やプレゼンテーションの機会を増やしていく。	
		②週課題の出題内容の充実を図り、テーマを設定した調べ学習を各学期1回以上設定する。	各学期1回以上の調べ学習を取り入れている。グループあるいは個人で発表し、授業展開に活用できている。	A			
		③授業評価で「家庭学習(予習復習・課題)ができた」が70%以上	「家庭学習(予習復習・課題)ができた」は71.5%であった。	A			
		④学年末成績平均が60点未満の生徒は、保護者を変えて次年度の学習への取組や、学校生活について面談を行う。	学年末成績平均が60点未満の生徒及び、成績下降が著しい生徒は、学期末毎に本人と保護者、担任、学年主任で面談を行い、生活全般についてふり返っている。	A			
		⑤専攻科において、実習後の振り返りを行い、思考判断能力の向上が見られる。	看護過程の授業において実習の振り返りをグループワークし、自分が行った看護について新たな気づきが得られている。	A			
		<b>活動計画</b>	<b>活動計画の実施状況</b>				
		自主的・主体的な学習の習慣化を図り、授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。	自主的な学習の習慣化を図るため、アクティブラーニングの手法を取り入れている。				
		①「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」手法を取り入れる。 ・授業にICTを積極的に活用する。 ・専門領域の外部講師を本年度も継続して招聘し、最新情報を取り入れる。	ICTを用いて効果的な授業展開や看護技術の習得を実践している。 防災教育、成人看護、精神科看護の外部講師、及び、救急看護・感染管理の認定看護師による講演・講義を行った。				
		②定期考査や模擬試験返却時、個人面談を行い、個々に応じたアドバイスや指導を行う。	成績不審者は、各教科担任が個別に面接し、学習方法の指導を行った。課題テストで60点未満の生徒は居残り学習を実施し、内容は個別に対応した。また、模試の成績不良者は再試を実施した。				
		③定期考査・課題テストにおいて60点に満たない生徒は補充学習を行い、学力の向上を図る。	課題テストで60点未満の生徒は居残り学習を実施し、内容は個別に対応し自主的に取り組めるよう工夫した。 また、看護科3年生の模擬試験は看護師国家試験の合格基準レベルに達していない生徒は、再試験を実施した。				